

令和2年度 寄せ植えコンテスト 審査講評

寄せ植えコンテストは、寄せ植え、ハンギングバスケット愛好家の花かざり技術の向上を図るとともに、花きの楽しみ方の工夫や発想の提案することを目的に毎年開催しております。

今年度は、専門家寄せ植え部門17作品、専門家ハンギングバスケット部門20作品、一般寄せ植え部門8点、キッズ部門8点、全53作品が出品されました。

10月14日に実施した審査会では、審査基準に基づき、作品のテーマ性やプロポーションなどの「デザイン」に関することや、植物の組み合わせや植え込み方などの「技術」に関すること、さらに、作品全体の雰囲気やまとまりを見る「総合評価」の観点から、各賞に値するものを厳正に審査いたしました。

出品された作品はどれも秋の色彩が楽しめる植物材料をうまく組み合わせた力作で、特にハンギングバスケット部門でレベルの高い作品が多いように思われました。

今回は、従来の専門家部門に加え、新たな区分としてキッズ部門が設けられたことで、ほほえましい楽しい子供の作品が加わり、多様な作品のコンテストとなったと思います。一般部門作品のレベルがとても高く、中にはとてもバランスのよいすばらしい作品がありました。

専門のハンギングバスケット部門と寄せ植え作品のなかにはギャザリング手法による作品も多くみられ、中にはその見分けがつかないものもありました。

植物素材によっては、作品の裏に隠れてしまって、その素材が活かされてなく、残念なものもありました。より素晴らしい作品とするために、高低差のある植物を選び、フォーカルポイントをしっかりさせると、全体が引き締まると感じました。寄せ植えでは、鉢に目いっぱい植物を入れ込むのではなく、適宜、空間をつくることで、作品に物語性がでてきたり、それぞれの植物素材の特徴が活かされると思います。

グランプリの作品は、モダンな和風庭園を切り取ったような、植え込みにスキのないプロの技術が感じ取れる心がやすらぐ作品でした。

今回、素晴らしい作品が数多く出品される中、見事に入賞された皆様に心からお祝いを申し上げます。

このコンテストを契機に、岐阜県の花かざりが益々盛んになりますことを祈念いたしまして、審査講評といたします。

令和2年度寄せ植えコンテスト審査長
上田 善弘